

導入しやすい契約形態

0円 初期費用は無料 0円 解約費用なし 1ヶ月ごとに契約更新できる

機能限定のお手軽なプラン	一番人気のおすすめプラン	家族の安否も確認できるプラン	グループ会社も利用できるプラン
ライトプラン 月額 6,800 円(税抜) 上限ユーザー数 50 ユーザー ご利用可能な機能 <input checked="" type="checkbox"/> 手動送信 <input checked="" type="checkbox"/> 自動集計 <input checked="" type="checkbox"/> 掲示板・メッセージ <input checked="" type="checkbox"/> LINE連携 (オプション) <input type="checkbox"/> 災害連動の自動送信 <input type="checkbox"/> ファイル添付 <input type="checkbox"/> SmartHR人事情報連携 <input type="checkbox"/> free人事情報連携 <input type="checkbox"/> cybozu.com人事情報連携 <input type="checkbox"/> 家族の安否確認 <input type="checkbox"/> API人事情報連携 <input type="checkbox"/> 差出人名変更 <input type="checkbox"/> グループ会社との利用	プレミアプラン 月額 8,800 円(税抜) 上限ユーザー数 50 ユーザー ご利用可能な機能 <input checked="" type="checkbox"/> 手動送信 <input checked="" type="checkbox"/> 自動集計 <input checked="" type="checkbox"/> 掲示板・メッセージ <input checked="" type="checkbox"/> LINE連携 (オプション) <input checked="" type="checkbox"/> 災害連動の自動送信 <input checked="" type="checkbox"/> ファイル添付 <input checked="" type="checkbox"/> SmartHR人事情報連携 <input checked="" type="checkbox"/> free人事情報連携 <input checked="" type="checkbox"/> cybozu.com人事情報連携 <input type="checkbox"/> 家族の安否確認 <input type="checkbox"/> API人事情報連携 <input type="checkbox"/> 差出人名変更 <input type="checkbox"/> グループ会社との利用	ファミリープラン 月額 10,800 円(税抜) 上限ユーザー数 50 ユーザー ご利用可能な機能 <input checked="" type="checkbox"/> 手動送信 <input checked="" type="checkbox"/> 自動集計 <input checked="" type="checkbox"/> 掲示板・メッセージ <input checked="" type="checkbox"/> LINE連携 (オプション) <input checked="" type="checkbox"/> 災害連動の自動送信 <input checked="" type="checkbox"/> ファイル添付 <input checked="" type="checkbox"/> SmartHR人事情報連携 <input checked="" type="checkbox"/> free人事情報連携 <input checked="" type="checkbox"/> cybozu.com人事情報連携 <input checked="" type="checkbox"/> 家族の安否確認 <input type="checkbox"/> API人事情報連携 <input type="checkbox"/> 差出人名変更 <input type="checkbox"/> グループ会社との利用	エンタープライズ 月額 14,800 円(税抜) 上限ユーザー数 50 ユーザー ご利用可能な機能 <input checked="" type="checkbox"/> 手動送信 <input checked="" type="checkbox"/> 自動集計 <input checked="" type="checkbox"/> 掲示板・メッセージ <input checked="" type="checkbox"/> LINE連携 (オプション) <input checked="" type="checkbox"/> 災害連動の自動送信 <input checked="" type="checkbox"/> ファイル添付 <input checked="" type="checkbox"/> SmartHR人事情報連携 <input checked="" type="checkbox"/> free人事情報連携 <input checked="" type="checkbox"/> cybozu.com人事情報連携 <input checked="" type="checkbox"/> 家族の安否確認 <input checked="" type="checkbox"/> API人事情報連携 <input checked="" type="checkbox"/> 差出人名変更 <input checked="" type="checkbox"/> グループ会社との利用

※51ユーザー以上のご利用や月額料金よりもお得な年間契約の詳細は、ホームページをご覧ください。
<https://anpi.toyokumo.co.jp/price.html>



全国のさまざまな業界の企業が導入

経営者もかんたん、従業員もかんたん、安否確認サービス2がもしもの安否をかんたんにしています。



他社からの乗り換えに限らず、さまざまな事例が多数掲載中 [安否確認サービス2 事例](#)



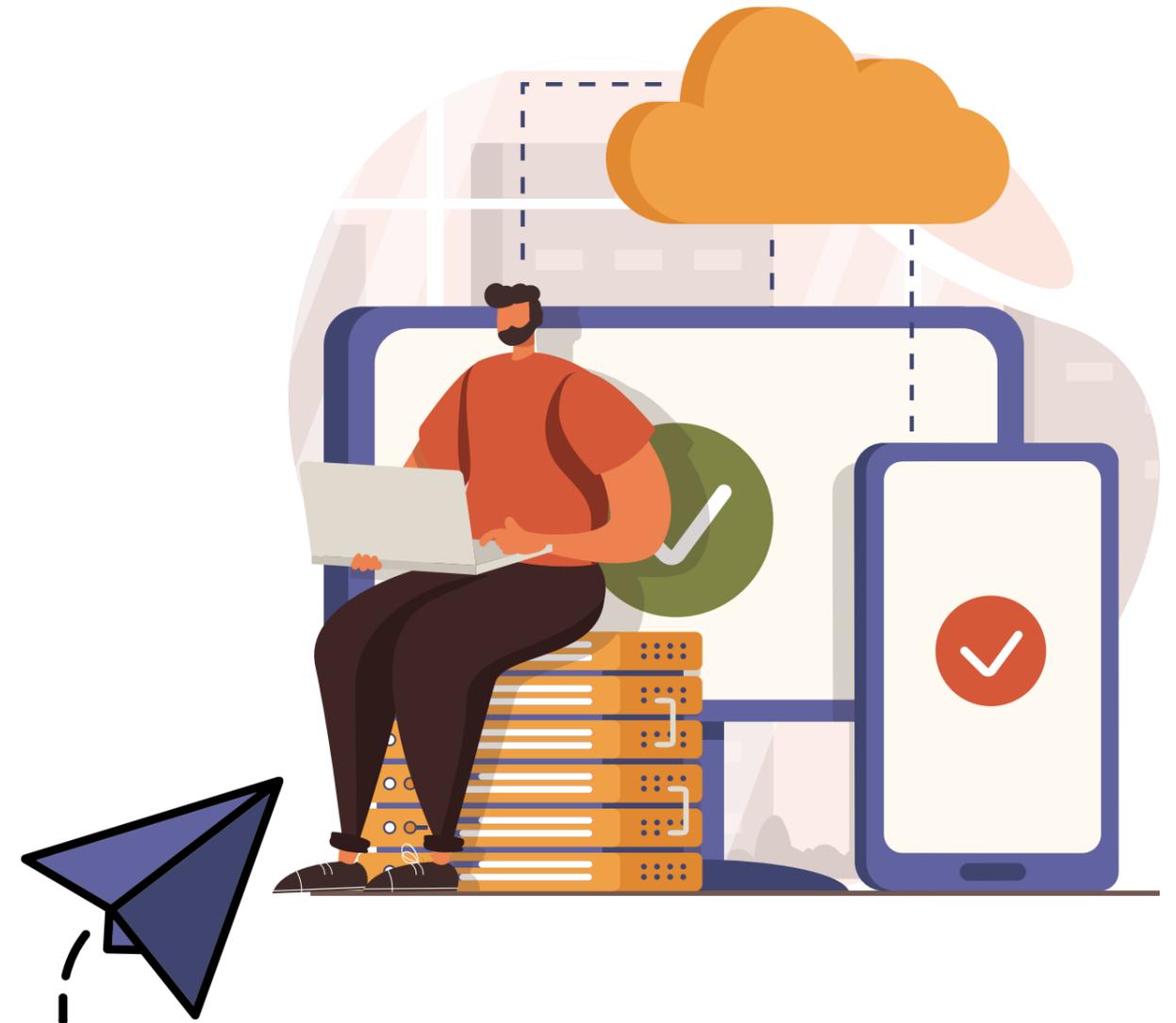
サービスに関するお問い合わせは、安否確認サービス2 Webサイトへ
<https://anpi.toyokumo.co.jp/>

※他社登録商標・商標をはじめ、当社のサイトその他カタログ、マニュアル等に記載されている会社名、システム名、製品名は一般に各社の登録商標または商標です。
<https://www.toyokumo.co.jp/copyright>
 ©トヨクモ株式会社 | Toyokumo, Inc.

お問い合わせ先

安否確認サービス2 導入事例

他社サービスから 乗り換えるワケ



目次

03 導入実績

04 大災害でも稼働する、稼働するから導入が進む

06 地震、津波、特別警報に連動！ メンバーを限定した会議もできる

08 ユーザー事例3選

事例1 株式会社アトックス

東日本大震災で得た課題
安否確認を自動化するために専用システムを導入

事例2 株式会社ポーラ・オルビスホールディングス

BCP対策の強化のために。
企業インフラの停止を想定し、さらなる活用を目指す

事例3 竹虎ホールディングス株式会社

他社からの乗り換えで確実な安否確認を実現

14 安否確認サービス2は、平時のメンテナンスも簡単

16 無料お試し・導入相談

3,000社以上が導入中

経営者もかんたん、従業員もかんたん、安否確認サービス2がもしもの安否をかんたんにしています。



事業継続において
重要なツールであるため、
平常時も活用することを心がけています。

アトックス/池田さん



情報周知のための代替ツールとして
安否確認サービス2を運用する仕組みを整
えていきたいです。

ポーラ・オルビス
ホールディングス
/南部さん



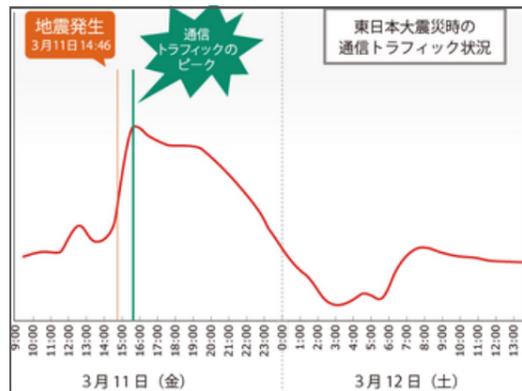
地震などの長期災害だけでなく、台風にお
ける電車の計画運休などに連動させた活用
なども行っていければと考えています。

竹虎ホールディングス
/長内さん

大災害でも稼働する、稼働するから導入が進む

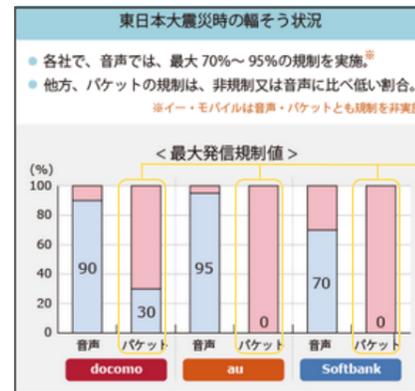
通信回線が輻輳する前に自動でアンケート付きのメールを送信

通信トラフィックのピークは発災後30分~1時間後にピークを迎えます。それまでにメールの配信を完了させることを目標としております。



※安否確認サービス2は、毎分100万通以上のメールを配信できる、SendGrid（センドグリッド）というメール配信システムを利用しています。

大規模災害時でもほとんど規制されることのない**パケット通信**のみで回答できる、ウェブ回答方式を採用しています。



大手通信キャリア
2社で規制されていない。

負荷検証を兼ねた全契約社対象の一斉訓練

毎年9月1日(防災の日)の前後にご契約中の全ユーザーを対象とした、全国規模で一斉訓練を行っています。この一斉訓練では、**実際の災害に近い、またはそれを超える規模でシステムに負荷をかけることで、システムが災害時に本当に稼働できるのかを、お客様ご自身の目で確かめることができます。**更に参加された企業には、回答率の時間推移や訓練全体の平均回答時間をまとめた**訓練レポートが無償で提供されるため、防災意識を高めるきっかけにもお役立ていただけます。**

一斉訓練の実績

2021年度

- 31万1,987名へ一斉送信
- 13時に約14万ユーザーがシステムへアクセス、障害や遅延なし。

2022年度

- 44万1,292名へ一斉送信
- 11時に約17万ユーザーがシステムへアクセス、障害や遅延なし。

Good安否確認賞2022 最優秀受賞企業様の声

四半期に1度、グループ全体で安否確認の一斉訓練を実施しています。回数を重ねるたびに回答スピードや回答率は向上しているのですが、予告なく発生する自然災害に対しても社員が迅速に対応できるのか、また、管理者が結果を随時把握できるのか、という懸念がありました。「安否確認サービス2」の一斉訓練では、**多くの会社様と同様の条件で、さらに開始時刻が予告されないため、当社社員の対応状況の位置付けが分かり、その後の社内防災体制改善に役立つと考えました。**また、自グループ内で実施する訓練と比較し、緊張感を持って臨めるという点も有意義だと感じています。



株式会社ガスパル 取締役 黒澤さん

安否確認サービス2の自動配信実績

誤報判定のため災害発生後10分間の時間を置いてから、自動一斉送信を開始しています。これは、気象庁が誤報を発報した際に誤った自動送信を防ぐための機能となります。

発生日時	災害種別	災害発生地域(地震は震央)	最大震度(波高)	配信完了日時	要した時間
2023-02-25 22:27	地震	新潟沖	震度5弱	2023-02-25 22:41	14分
2022-11-09 17:40	地震	茨城南部	震度5強	2022-11-09 17:54	14分
2022-10-21 15:19	地震	福島沖	震度5弱	2022-10-21 15:31	12分
2022-10-02 00:02	地震	大隅半島東方沖	震度5弱	2022-10-02 00:16	14分
2022-09-18 21:05	特別警報(大雨)	宮崎県北部山回り		2022-09-18 21:18	13分
2022-09-18 18:55	特別警報(大雨)	宮崎県北部平野部、宮崎県北部山回り		2022-09-18 18:48	13分
2022-09-18 16:51	特別警報(大雨)	鹿児島県大隅		2022-09-18 16:42	11分
2022-09-18 16:05	特別警報(大雨)	宮崎県南部平野部		2022-09-18 16:18	13分

誤報判定後4分で配信

安否確認サービス2では自動配信実績を公開しております。平成30年北海道胆振東部地震では地震発生から自動メール配信完了まで、10分(誤報判定時間除く)という結果でした。配信実績を公開していないサービスが多く不透明であるからこそ、導入検討時にご確認いただきたいです。

自動配信実績の確認はこちらから！

2017年6月20日からの配信履歴を確認することができます。

<https://anpi.toyokumo.co.jp/function/data.html>



国内の災害を想定したシステム構成サーバーを国際分散

世界最大のクラウドサーバー事業者である、アマゾン ウェブ サービス (AWS) のデータセンターを利用しています。AWSは、**世界最高水準のセキュリティ**誇っており、国内の金融機関や米国政府なども利用しています。

建屋の耐久性や入退室管理、サーバーの監視などは厳格なルールに則って運用されており、**1年を通じて2,600を超える要件について、外部の監査機関による監査を受けています。**

データセンターはシンガポールをメインとして、日本、アメリカと国際分散しています。



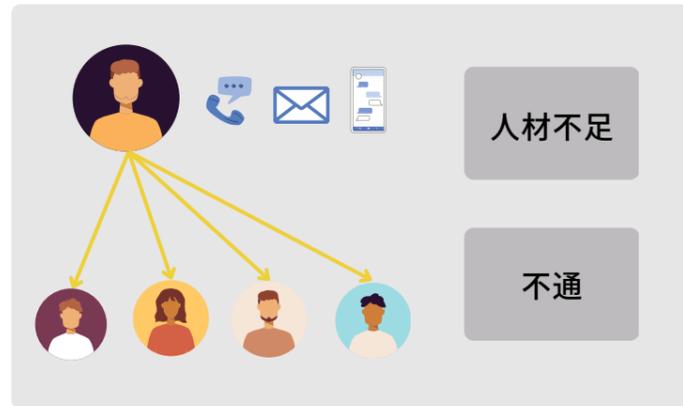
※シンガポールは、直近の100年間で地震が観測されておらず、津波被害の記録もありません。距離的にも日本と比較的近く、電力事情も安定していることから、当社ではあえてシンガポールのデータセンターをメインとしています。

取得している認証
トヨクモ/AWS



地震、津波、特別警報に連動！メンバーを限定した対策会議もできる

1 人材不足、連絡の不通で安否情報などの収集ができない



特定の担当者が災害時に電話やメール、SNSで従業員の安否確認や取引先の被災状況を確認をすると膨大な時間がかかる。タイミングによっては、通信回線の輻輳で不通になることも少なくない。

安否確認サービス2で解決！ システムが担当者に代わって、安否確認を自動化！

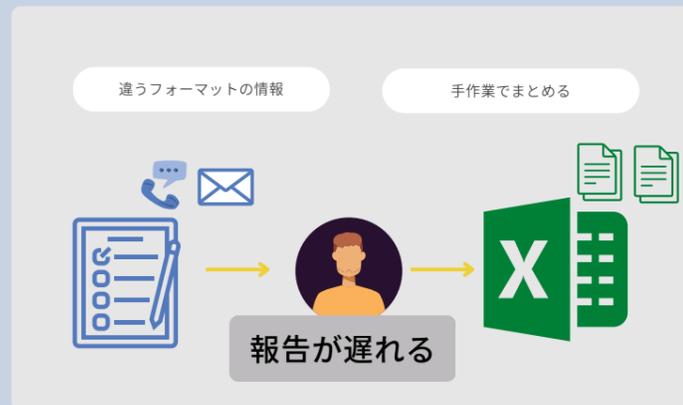


気象庁の地震/津波/特別警報の発令に連動した、メールの自動送信の設定ができます。連絡の手間や漏れ、時間外労働を削減することができます。



送信条件の項目、メールや設問フォームのテンプレートを選ぶだけ。簡単に自動送信の設定を作れます！

2 回答の集計に時間がかかって、報告が遅れる



電話やメール、SNSなどさまざまなフォーマットで情報を受け取り、Excelなどにまとめるのは大変。入力ミスや漏れに注意する必要がある。

安否確認サービス2で解決！ システムが担当者に代わって、集計を自動化！

設問フォームに回答があると管理者に通知が届きます！



ID/パスワードの入力不要！クリックするだけで集計画面にアクセスします。

自動集計の結果をさまざまな端末から確認できます！



出社をしていなくても手元にある端末から集計画面にアクセスすることができます！

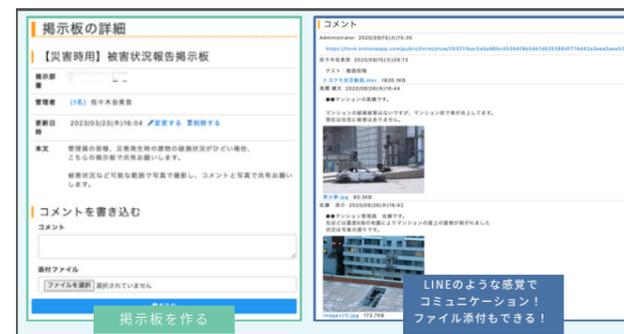
3 出社ができず、コミュニケーションが取れない



通信回線の輻輳で、円滑なコミュニケーションが取れず、事業復旧の対策を議論することができない。また、従業員へ情報伝達が遅れ、一時的に事業が停止してしまうこともある。

安否確認サービス2で解決！ オンラインでどこでも対策会議ができる！

全ユーザーとオンラインでコミュニケーション



特定のメンバーで議論



最大200ユーザーを宛先に指定できるコミュニケーション機能です。防災担当者の議論スペース、各部署の連絡用、1対1のやり取りなどに活用できます。

事例1

東日本大震災で得た課題 安否確認を自動化するために 専用システムを導入



	株式会社アトックス	
	事業 原子力発電所保守管理/原子燃料サイクル施設 関連業務など 従業員数 1,983名(2022年9月末時点)	お話を伺った方 安全・品質保証部長 熊谷さん 人事労務部長 高田さん 人事労務部 副課長 鈴木さん 人事労務部 副課長 池田さん 人事労務部 矢野さん

課題

☹️ 東日本大震災で全従業員の安否確認に2週間かかり、安否確認システムを導入。
しかし、平常時の人事情報のメンテナンスに膨大な作業工数が発生。

効果

😊 人事情報のメンテナンスを自動化し労働生産性の向上を実現。

詳細はこちら

<https://anpi.toyokumo.co.jp/case/atox.html>

東日本大震災を経験して情報収集の仕組みを見直し

—安否確認システム導入前の課題を教えてください

熊谷さん：安否確認システムを導入する以前は、災害が発生した際は緊急連絡網を確認して、電話やメールで従業員の安否確認をしていました。

2011年3月11日に発生した東日本大震災では、主要な連絡ツールであった携帯電話は電気通信事業者が通信規制を実施したため、一時的に電話が繋がらなくなり、情報収集の仕組みが一部機能しませんでした。

福島県においては東京電力福島第一原発事故の影響で、市町村長から避難指示が発令されたため、避難所などに調査隊を派遣し人的に従業員の安否確認をしました。

全従業員の情報収集に2週間かかった結果を踏まえ、災害発生時などの緊急事態において情報収集・共有を迅速にする手段はないかと考えていたところ、人事情報を登録し、地域を設定するだけで従業員の安否情報を自動で収集できる安否確認システムの存在を知りました。



メンテナビリティの高い製品へ乗り換え

—導入はスムーズに進みましたか？

熊谷さん：付き合いがあったA社が安否確認システムを提供していて、限定的ではありましたが一部の災害であれば安否確認を自動化できることが確認できたため、比較を行わず本社の従業員200名を対象にテスト導入しました。

—A社さんのサービスから、なぜ安否確認サービス2に乗り換えたのでしょうか？

鈴木さん：毎年約100名程度の人事異動があり、頻繁に人事情報をメンテナンスしています。人事情報管理はシステム開発会社に委託し開発した自社独自の人事管理システムで行なっていて、A社の安否確認システムは連携することができず、重複してメンテナンスする必要があり膨大な作業工数が

発生していました。人事情報のメンテナンス業務を夜間に対応するなど、労働生産性の低下を感じ、人事管理システムと人事情報を連携できるトコモの安否確認サービス2へ乗り換えました。安否確認サービス2の導入後は、人事情報のメンテナンス業務が一元化されて、人事管理システムの情報が自動的に反映される仕組みになり、業務効率が上がったことで、労働生産性が向上したと思います。

人事情報管理が煩雑になると、各システムで管理している情報に差異が発生するリスクが増えます。例えば、人事管理システムと安否確認システムに登録されている人事情報が異なっていた場合、安否確認システムに登録されている情報に誤りがあれば、いざという時に従業員の情報収集ができない可能性があると思います。こういった状態では、災害時の業務を効率化する専用システムを導入しても、意味がありません。だからこそ、正確な情報で運用するために、安否確認サービス2の人事情報連携機能は絶対に必要です。

経営資源である「ヒト」を迅速に把握し確保する

—人事システムとの連携機能を評価いただきありがとうございます！
その他良かった点はありますか？

高田さん：アトックスでは、防災の視点から自社で定期訓練を実施していますが、メーカー主催の訓練で安否確認メールの受信、回答、集計状況を踏まえた議論と実際の災害と同様の流れを確認できて、さらに、訓練後に提供される結果レポートから振り返りができることから、継続して参加をしています。

これまでに2回一斉訓練に参加して、その都度結果レポートを踏まえ、一斉訓練後（11月）に再訓練を実施し、一斉訓練で得た課題改善や従業員の安否確認の意識向上に努めています。2021年の一斉訓練では、結果レポートから従業員の回答率を改善できると感じて、現状報告・改善のために資料を作成し、従業員へ周知しました。結果として再訓練では、一斉訓練と比較して回答率が13ポイント増加し、約270名の回答が増えました。

ご担当者様から一言

東日本大震災の経験と反省を踏まえ、首都圏直下型地震を想定した「大規模災害発生時」における行動指針を策定しました。安否確認サービス2は、事業継続において重要なツールであるため、平常時も活用することを心がけています。

自動配信が可能な地震・津波・特別警報において、緊急度の高低に関わらず、従業員が高い危機意識を持って活用できる仕組みを整えていきます。

人事労務部 副課長 池田さん

—一斉訓練で回答率が向上したことに嬉しく思います。最後に今後の活用について教えてください。

高田さん：アトックスの企業理念は「環境とエネルギーの課題解決に寄与し、社会の発展と社員の幸せに貢献する。」です。安否確認サービス2の導入目的は、災害発生時などの緊急事態に従業員の安否情報を迅速に収集することです。事業継続をして迅速な復旧が可能になるほか、その情報をもとに自社の従業員に命を守るための行動を指示することも可能です。

従業員を大切にして、防災改革を進める、その中心に安否確認サービス2があると思っています。特徴でもある、充実したコミュニケーション機能を活用して、インターネット上で活発に情報発信・共有ができる環境が実現することを期待しています。



事例2

BCP対策の強化のために。
企業インフラの停止を想定し、
さらなる活用を目指す



	株式会社ポーラ・オルビスホールディングス	
	事業 グループ全体の経営管理（グループ戦略の策定やグループ経営のモニタリングなど） 従業員数 4,261名※連結（2021年12月時点）	お話を伺った方 コーポレートコミュニケーション室 サステナビリティ統括チーム 南部さん

課題

管理者が同時に従業員の安否情報を確認できない

安否確認の順番待ちが発生して、初動対応が遅れる

効果

管理者の安否確認作業を効率化して、迅速な初動対応を実現

詳細はこちら

<https://anpi.toyokumo.co.jp/case/po-holdings/>

緊急時の対応方針は定まっていたが初動対応は最適化されていなかった

—安否確認サービス2導入の背景を教えてください。

南部さん：2012年ごろから事業継続力強化を目標にBCP対策を進めており、緊急時の初動対応を円滑にするために安否確認システムを導入しました。従前の安否確認システムでは、管理者アカウントを各グループ会社の安否確認責任者に付与する運用をしていたのですが、一度に利用できるアカウント数が限られており、緊急時に各社同時に安否確認が行えず、一部のグループ会社ではリアルタイムに従業員の安否確認を行えない問題が発生していました。これによって、安否確認の順番待ちが発生し、初動対応が遅れていました。

—BCPにおいて、初動対応はとても重要ですね。

南部さん：はい。初動対応では人命保護に向けた状況把握や二次災害の防止に大きく関係しています。また事業復旧までのスピードにも関わりますので、初動対応の課題を重要項目の一つと認識し、安否確認システムの切

り替えを検討し始めました。

また、BCPでは複数の災害や企業インフラの停止によるコミュニケーションツールが利用できない事態も想定しているため、それらに対応できるシステムを導入したいとも考えました。

グループ運用を最適化、操作画面がわかりやすく誰でも簡単に使えるのが魅力

—安否確認システムの乗り換えをどのように検討したのでしょうか？

南部さん：以前利用していた安否確認システムとトヨクモさんの「安否確認サービス2」、そして類似する2製品の計4製品を比較検討しました。汎用性が高いシステムであることを大前提に、従業員・管理者の操作性が良く、また低コストで導入・運用できることを重視していました。こういったシステムを導入・運用する際は、従業員情報の定期的なメンテナンスがとても重要であり、導入・運用に関する設定やメンテナンス性もリソース配分の視点で考慮しました。

安否確認サービス2には、CSVファイルから人事情報を一括で追加・削除・更新できる機能があり、管理している人事情報に安否確認サービス2で必要

な項目を追加すれば、手動でのメンテナンス作業を最小化し、4200名という規模の人事情報をほぼ自動で管理しています。検討していた他の製品にも類似の機能がありましたが、特に安否確認サービス2はデータインポートの仕様がシンプルで分かりやすく、要件定義の段階では人事部門や情報システム部門との調整がスムーズに行えました。

課題であった管理者アカウントの同時アクセスについても、追加費用を支払わず無制限に管理者権限をユーザーに付与できるため、BCP対策を柔軟に見直すことができます。また、常に最適化された状態でサービスを利用することも導入の決め手となりました。

災害で迅速な初動対応を実感 安否確認サービス2がグループ会社全従業員の安否確認を一手に担う

—導入後、どのように社内浸透をされたのでしょうか？

南部さん：安否確認システムの切り替え前から従業員への周知、安否確認システムへの登録状況の確認を万全にし、導入1か月後に、安否確認通知の到達率や管理者の操作理解度の確認を目的とした安否確認訓練を行いました。

1社でも安定運用が担保できなければ、事業継続の視点から安否確認システムが機能しない可能性があることを意味しますが、訓練では従業員から迅速に安否確認メールに回答があり、管理者も操作に迷うことなく、結果的に全従業員の安否情報を滞りなく収集することができました。安否確認サービス2の直感的な使いやすさが早期の社内浸透につながったと考えています。

ご担当者様から一言

感染症対策を契機に、生産性やエンゲージメントを向上させるためリモートワークが普及し、新しい働き方の一つとしてスタンダード化されています。企業インフラが停止した時にオフィス外からでも会社とやりとりができるよう、情報周知のための代替ツールとして安否確認サービス2を運用する仕組みを整えていきたいです。

コーポレートコミュニケーション室
サステナビリティ統括チーム 南部さん

—導入後の効果について教えてください。

南部さん：多くのグループ会社の本社機能は都内にありますが、商品の研究や開発、生産、物流の拠点はさまざまで、また販売店は全国に展開しています。地震や風水害といった災害が発生した場合、例えば、グループの事業会社では、従業員の安否状況および店舗の被災状況を確認する必要があります。安否確認サービス2の導入後、震度5強以上の地震が何度か発生しましたが、震源地の拠点に所属する従業員に対してすぐに安否確認の通知がされていることを確認しました。訓練の成果もあってか、迅速に回答が集まり、仮に回答がない場合でも、自動的に回答を催促する再通知がわかれるので管理者としては、安否確認の手間がなく、収集された情報を確認して、対応策を議論すれば良いので、初動対応が早くなったのはもちろん、管理に掛かる負担が軽減されたと感じています。



事例3

他社から乗り換えて 確実な安否確認を実現



	竹虎ホールディングス株式会社	
	事業 医療衛生材料、医療機器、医薬部外品、歯科用品等の開発・販売及び輸出入福祉用具、生活支援用具の開発・販売及び輸出入 従業員数 165名(2023年4月末時点)	お話を伺った方 総務部常務 長内さん 総務部 情報システム課 菅田さん

課題

- 他社の安否確認システムを導入していたが、利用定着されず十分に活用できていなかった
- 東日本大震災で、全従業員の安否確認ができなかった
- 安否回答の集計に時間がかかり、社内共有までかなりの時間を要していた

効果

- 一斉訓練で回答の最頻値が1分となるほど、従業員の防災意識が向上した
- 有事の際、不安定な電話やメールに代わり確実に安否確認ができるようになった
- 即座に集計結果と回答状況を確認できるようになった

詳細はこちら

<https://anpi.toyokumo.co.jp/case/taketora.html>

他社システムで確実な安否確認ができず乗り換えを検討

一安否確認システムの導入前はどのような課題がありましたか。

菅田さん：以前は一般的な緊急連絡網を使って順番に電話確認をしていましたが、不在の人がいると連絡が取れず困ったという経験から安否確認システムを導入しました。東日本大震災が発生した時はすでに導入していたのですが、社内での定着率が低く有事の際に十分に活用できたとは言えませんでした。

当時、安否確認システムを導入していたにもかかわらず、回答状況が確認できない、従業員1人につき複数の連絡先を確保できないことから有事の際に連絡が取れない、といった課題が浮き彫りになったことから、社内であらためて一定レベルの機能が安否確認の機能を検討し直すということになりました。

長内さん：家族間での安否確認ができるオプション機能を利用していたのですが、活用している従業員がほとんどおらず、使わない機能に高いコストを支払っているという点も見直しのきっかけになりましたね。

そんな中、トヨクモの安否確認サービス2の見積もりを取ったところ安否確認が分かり、具体的に乗り換えを検討するに至りました。



「安かろう悪かろう」を覆すリーズナブルな料金設定と充実の機能が決め手

なぜ安否確認サービス2を選んでいただいたのか理由を教えてください。

菅田さん：当時インターネットで比較サイトをチェックし、何社か資料請求しました。コストだけで考えると、より安価なシステムも確かにありましたが、当社として必要な項目を網羅していたのが安否確認サービス2のだったと記憶しています。

内容としては、気象庁の災害情報、地震、津波、特別警報に連動した自動一斉送信機能があること、回答の自動集計機能があること、ユーザー1人につき複数の連絡先を登録できること、従業員が何度でも返信できることなどです。あとは、他社と比較して集計結果が非常に見やすく、CSVで出力もできるという点も大きなメリットに感じました。

長内さん：組織として登録するセクションをどれだけ細分化するかによっても異なるのですが、当社としては各管理者が時間をかけず、いかに細かく回答状況を確認できるかという点に着目しました。

安否確認サービス2は都道府県別でも確認できますよね。例えば静岡で地震が発生した際、周辺エリアにいる従業員の回答状況を即座に確認できれば、会社としては大きな問題に発展する可能性は低くなります。エリアや部署といった単位で集計が迅速に行われることで、対応判断が瞬時にできるため非常に助かっています。

従業員を想う社長の熱い気持ちを『安否確認サービス2』で形に

一安否確認サービス2をどのように社内浸透させましたか？

長内さん：社長自らが回答状況を確認し、特に管理職クラスで確認していない人がいると、私から対象者に連絡をして確認を促すというやり取りを繰り返しました。現在は、おおよそ30分以内に8割以上の回答が来るようになっていますが、社長が徹底して意識付けしてくれたことが大きく影響していると思います。社長は毎回「今日中に返事がなければ始末書ものだ！」などと言いながら、1時間ごとに回答状況を確認しており、そのやり方が正しいかどうかは分かりませんが、それくらい安否確認を重要視している熱意が従業員にも確実に伝わっています。

一安否確認サービス2を導入してよかったと感じるのはどのような点ですか。

長内さん：安否確認サービス2に乗り換えてから、年1回の一斉訓練を利用

ご担当者様から一言

地震はいつ発生するか分からないので、いざという時確実に従業員が無事かどうか分かるという点は安否確認サービス2に対して最低限期待している成果と言えます。

また、全従業員に対し一斉に情報を周知するツールとして非常に便利なので、例えば地震などの長期災害だけでなく、台風における電車の計画運休などに連動させた活用なども行っていければと考えています。

総務部常務 長内さん

して毎年確実に防災訓練ができるようになったのは、会社として大きな成果だと思います。

他社には同様のサービスがなく当時は定着率も低かったのですが、安否確認サービス2の導入前に一斉訓練の存在を知り、その時から回答率を定着させる手段として一斉訓練を利用しようと考えていました。

導入2年目以降、一斉訓練には毎年参加させていただいていますが、社長の積極的な意識付けもあってシステムが定着し、回答速度・回答率が一定水準以上であると自負しています。



安否確認サービス2は、平時のメンテナンスも簡単

CSVファイルの読み込みで従業員や部署情報などを一括更新

ユーザー情報のCSVファイルからの読み込み

項目は以下の順で読み込みます

1. 親ログイン名	2. 名前	3. 新ログイン名
4. 読み	5. メールアドレス	6. 電話番号

グループのCSVフォーマットを使用する場合は、以下の順で読み込みます

1. 親ログイン名	2. 名前	3. 新ログイン名	4. パスワード
7. 削除フラグ	8. 読み	9. メールアドレス	10. メモ

追加したい場合: 親ログイン名・削除フラグは空白とし、名前・新ログイン名・パスワードを入力してください。その他の項目は任意に入力してください。*は入力できません。

更新したい場合: 親ログイン名を入力し、削除フラグは空白とし、更新したい項目に値を入力してください。更新しない項目は*を入力してください。

削除したい場合: 親ログイン名を入力し、削除フラグを1としてください。

※詳細についてはこちらをご覧ください。

CSVファイルから読み込む【ユーザー情報】-Step 1/2

CSVファイル

ファイルを選択 選択されていません

読み込み対象部署

でもホールディングス株式会社

文字コード

Windows-31Jのファイルとして読み込む(Windows OSなど)

UTF-8のファイルとして読み込む(macOSなど)

グループのCSVフォーマットを利用する

次に、ファイルの中身を確認する

キャンセルする

ボタン1クリックで従業員や部署情報などを簡単メンテナンス

安否確認サービス2は、SmartHR、freee人事労務、cybozu.com、Google Workspaceと連携しています。



● 安否確認サービス2と SmartHR連携で簡単メンテナンス

トヨクモ 安否確認サービス2

ボタンを1クリック! SmartHRにログイン

連携を許可

● 安否確認サービス2と freee人事労務連携で簡単メンテナンス

トヨクモ 安否確認サービス2

ボタンを1クリック! freee人事労務にログイン

連携を許可

グループウェアや人事情報システムの情報を同期

人事情報を管理しているシステムと安否確認サービス2を連携させて、メンテナンスの工数を削減することができます。

API認証トークンの発行

API認証トークン: 未発行

API認証トークンを取得する

API認証トークンを発行して人事システムとの連携設定

トヨクモ 安否確認サービス2

ユーザー情報や部署・地域情報、所属情報を半自動的に安否確認サービス2に登録、編集、削除することができます!

人事情報システム

- ユーザー情報
- 部署・地域情報
- 所属情報

● 安否確認サービス2と cybozu.com連携で簡単メンテナンス

トヨクモ 安否確認サービス2

ボタンを1クリック!

cybozu.com連携

連携を許可

● 安否確認サービス2と Google Workspace連携で簡単メンテナンス

トヨクモ 安否確認サービス2

ボタンを1クリック!

Google Workspace連携

Googleにログインして連携

※APIとは、異なるシステム同士を繋ぐ窓口のようなもの。連携にあたっては、利用中の社内システムがAPIに対応しているかを確認してください。

各種連携サービスを利用するためには、安否確認サービス2ライトプランより上位のプランのご契約が必要です。また、各種連携サービスの利用料金が別途必要です。

安否確認サービス2で安否確認について

詳しく知りたい方へ！

安否確認サービス2で「安否確認」を

試したい！

安否確認サービス2で「安否確認」を

相談したい！

1 安否確認サービス2の無料お試しを申し込もう！

お試し申し込みURL

<https://anpi.toyokumo.co.jp/trial.html>



※無料お試しは、申し込みいただいたプランで全ての機能を検証いただけます。

※安否確認サービス2のお試し期間中は、支払いに関する情報は伺いませんので、終了後に自動的に課金されることはありません。

※無料お試し終了後に再度申し込みすることで、何度でもお試しできます。



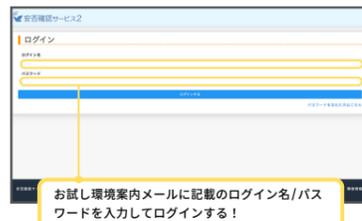
お申し込みフォームに従って入力

お試し申し込み完了後に担当スタッフよりご連絡します。その後、お申し込みの内容に合わせて、メールでお試し環境をご案内します。



2 スタートアップガイドに沿って、機能を体験しよう！

お試しに申し込みした方は、スタートアップガイドに沿って、まずは自分のアカウントを登録！基本機能を使ってみましょう！



お試し環境案内メールに記載のログイン名/パスワードを入力してログインする！



システム設定をクリック！

※システム設定では、会社情報、ユーザーの権限、セキュリティ、外部システム連携などを設定できます。初期状態では、お試し環境案内メールに記載のパスワード入力してアクセスできます。



会社情報の設定の「部署/地域/ユーザーの設定」をクリック！



Administratorの名前/ログイン名/パスワード/メールアドレスを編集して自分のアカウントを作り、お試しをはじめましょう！

初期設定を30分で完了する

別冊：

初期設定が「30分」で終わる安否確認サービス2スタートアップガイド

トヨクモに相談する

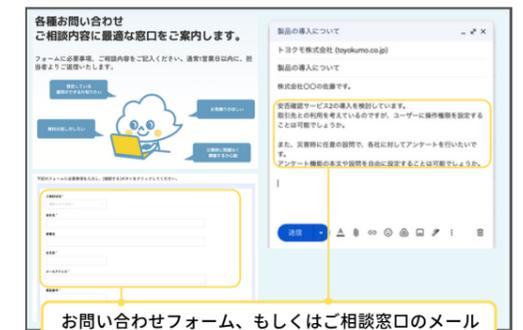
電話相談

専門のスタッフが疑問やご相談をお伺いして、お客様に合わせてサポートいたします。



メール相談

不明点や気になる点など、導入に関する相談をメールで気軽に相談できます。



お問い合わせフォーム、もしくはご相談窓口のメールアドレスにお問い合わせください。

詳しくは

安否確認サービス2 相談



ご相談窓口はこちら！

安否確認サービス2の運用、導入について
お気軽にご相談ください



<https://anpi.toyokumo.co.jp/inquiry.html>

050-3816-6666

9:00~18:00

toyokumo@toyokumo.co.jp

土日祝を除く